

## 黄色ブドウ球菌による乳房炎について

「乳房炎を治療してもなかなか治らない」、「治ったと思っても何度も再発してしまう」そんな問題を抱えていませんか？それは、黄色ブドウ球菌が原因かも知れません。

### ➤黄色ブドウ球菌による乳房炎の特徴は？

- 1 治りにくい:感染すると乳房の奥深くに入り込むため、薬剤が到達しにくい
- 2 伝染する:搾乳者の手、タオル、ミルクカーを介して、他の分房や他の牛に伝染する。
- 3 どこにでもいる:もともと乳頭皮膚や人の手など、環境中に広く存在する

### ➤どのように伝染するの？

- ① 細菌が乳房内に侵入、炎症を引き起こす
- ② 乳房内で大量に増殖し、乳汁とともに環境中に排出される
- ③ 排出された菌が搾乳作業などにより、他の牛に感染する

### ➤予防するには？

- 1 搾乳作業の改善  
搾乳手袋の着用、1 頭 1 布の乳房清拭、ポストディッピングの実施、過搾乳の防止
- 2 乳房炎の早期発見  
定期的な PL テストの実施により、早期発見、早期治療を目指す
- 3 牛の健康維持  
定期的なビタミン投与、牛床の乾燥、適切な蹄の管理 等

### ➤検査で黄色ブドウ球菌が分離されたらどうすればよいの？

- 1・感染牛は可能な限り隔離し、他の牛への感染を防ぐ
- 2・感染牛は一番最後に搾乳し、タオルやバケツは別にする。
- 3・感染初期ならば、抗生物質による泌乳期治療も可能
- 4・症状がみられる場合は乾乳期に徹底して治療する。
- 5・高経産牛・複数分房罹患牛、慢性的罹患牛は治療効果は低いので、盲乳、淘汰を検討する。

## 神奈川県県央家畜保健衛生所

本所 〒243-0417 海老名市本郷3658  
電話：(046)238-9111 ファクシミリ：(046)238-9124  
東部出張所 〒226-0015 横浜市緑区三保町2076  
電話：(045)934-2378 ファクシミリ：(045)934-5432

県央家保ホームページ

